

山崎川の概要

山崎川は、平和公園の猫ヶ洞池に源を発し、南西に流下して、名古屋港に注ぐ、延長 13.6 キロメートル、流域面積約 26 平方キロメートルの河川で、本山交差点から下流約 12.5 キロメートルが二級河川に指定されています。昭和 63 年 12 月にふるさとの川(可和名橋から出合橋)モデル事業の認可を受け、整備が進められてきました。平成 19 年 2 月、瑞穂区分の山崎川散策路(可和名橋から石川橋)の工事が完了し、サクラの木も約 630 本に増えました。川に近づけるポケットパークや、水飲み場、ベンチも整備され、かなえ橋から石川橋はフットライトも設置されています。

山崎川の桜

山崎川の桜は、財団法人日本さくらの会から「さくらの名所 100 選」に認定された、全国的に有名な桜の名所です。石川橋から新瑞橋までの 2.8 キロメートルの兩岸には約 600 本のソメイヨシノの並木が続き、特に木造で風情のある鼎小橋付近には、美しい花をいっぱい咲かせる老木が数多く残され、川面と相まって見所のひとつになっています。また、田辺公園付近などでは川岸まで降りることができます。桜の花が咲き誇る期間、鼎小橋付近では夜間ライトアップが行われ、投光器が照らし出す夜桜風景は大変美しく一見の価値があります。

山崎川の桜の始まり

昭和 2 年(1927 年)に設立、昭和 10 年(1935 年)に解散をした石川土地整理組合が、石川橋から南の山崎川兩岸に桜を植えたのが始まりです。

弥富公園

弥富公園は、昔は大根池という農業用のため池でした。
現在は埋め立てられていて運動場に、下部が貯水池になっています。